南が上の世界地図

杉本（すぎもと）　良夫（よしお）　●豪州ラトローブ大学名誉教授　社会学

世界地図というものは、どれも北が上にあり、南が下にあるのは、なぜだろう。そんな疑問を持つ人がいても、不思議ではない。スチュアート・マッカーサーという、オーストラリアの少年も、そのひとりだった。もちろん、日本占領軍のマッカーサー元帥とは何の関係もない。

1970年、いまから半世紀ほど前の話だが、この少年が通っていたメルボルンの学校で、世界地図を描きなさいという課題が出た。地理の授業である。そこで、当時12歳のマッカーサー君は、南を上に北を下にした地図を書いて提出した。先生は「これではだめだ。正しい地図を書きなさい」と言う。「書き直さないと合格しないよ」と、再提出を求めたのだそうだ。

15歳になって、彼は日本へ留学する。ところが、同じ留学生仲間のアメリカの学生から「お前は世界の底から来たんだろう」とからかわれる。頭にきた彼は、いつかオーストラリアが上位に来る世界地図を作ってやると決心する。

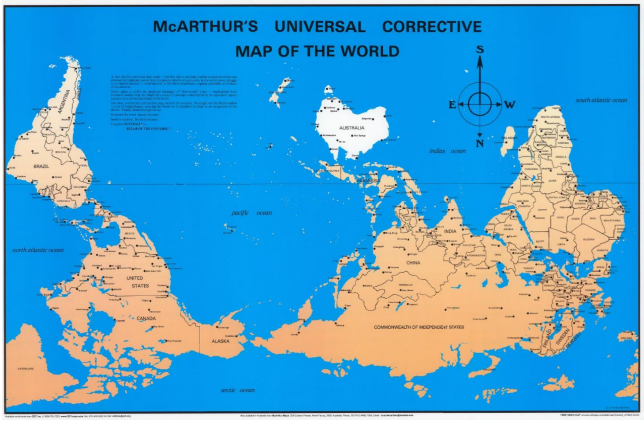
その後、彼はメルボルン大学に進学。「マッカーサーの普遍的修正世界地図（McArthur's Universal Corrective Map of the World)」と銘打って、彼独自の作品を市場に出したのが、1979年１月26日だった。もちろん、南が上、北が下の世界地図である。これが大当たりで、知る人ぞ知るロングセラーとなっている。これまで数十万部が売れているそうだ。意外性が好まれるのか、海外からの観光客にも人気があり、あちこちのおみやげ店でも目にする。本屋で見かけることもある。北が上の地図だけが唯一の普遍ではなく「もうひとつの普遍がありますよ」という言外の意味を、おもしろがったり、もの珍しく思う人たちが少なくないからだろう。「普遍の相対化」である。

そう言えば、オーストラリアが「ダウン・アンダー」と呼ばれることもある。かつて宗主国だったイギリスから見て、地図上で下の方向にあるからだ。そう思っている人たちは、北が上にある通常の地図を、知らず知らずのうちに心に描いているに違いない。

もっとも、「ダウン・アンダー」という呼び名は、オーストラリア社会で嫌われているわけでもない。ツアー・ダウン・アンダーという自転車レースが、毎年南オーストラリア州のアデレードで開催されるくらいだ。だから、この表現は抗議と言うよりは、一種の揶揄である。

それにしても、私たちが何気なく想定する世界地図の向きは、心の深層に刷りこまれた世界像を映し出している。その意味で、地図の上下位置は政治的なメッセージだと言えそうだ。

実はこのことに気がついていた人は、他にも少なからずいる。よく知られているのは、ウルグアイの画家、ホアキン・トーレス・ガルシアで、彼



マッカーサーの普遍的修正世界地図
（出典：David Rumsey Historical Map Collection
https://www.davidrumsey.com/）

が1940年代に発表した「逆転アメリカ」は、南米を上部に置き、北米を下部に置いた絵地図である。

いずれも、南半球の北半球に対する、いわば地域主義的反発というところか。そういえば、マッカーサー地図が売り出された１月26日は「オーストラリア・デイ」だった。1788年のこの日、イギリスから送られてきたアーサー・フィリップの艦隊がシドニー湾に入り、英国旗のユニオン・ジャックを打ち立てた日とされる。建国記念日の意味合いを持つ公休日だ。そんな日に発売を始めた南北逆のこの地図は、イギリス優位の国の始まりに反発する一種のナショナリズムの表現でもある。

建国記念日のあり方を巡っては、別の集団からの抵抗もある。先住民のアボリジニーから見れば、オーストラリア・デイは白人による「侵略の日」に他ならない。「哀悼の日」だという人たちもいる。こんな日を全国民が祝うのは、おかしいのではないか。そういう声が先住民だけでなく、いろんな市民団体の間でも強くなってきている。代わりに、例えば７月９日はどうかという案がある。1900年のこの日にオーストラリア憲法が承認されて、英国から独立を果たした日だから、憲法記念日こそ建国記念日にふさわしいというわけだ。その感情は、逆さ地図の精神と軌を一にする。

北が上の世界地図は、植民地主義と関係している。15世紀から17世紀に及ぶ、いわゆる「大航海時代」にヨーロッパ諸国は、航海用の世界地図を必要とした。これらの国で作られた世界地図が、その頃から始まる植民地獲得競争の背景にある。地図制作者はそうした国々の人たちだった。彼らのヨーロッパ中心の世界観が作品にも投影しても不思議ではない。その後、国際関係と地図画面の相関関係は、すっかり定着し、今日私たちが持つ世界のイメージの岩盤をなしている。

列強による植民地の取り合い以前の地図は、北が上とは限らなかった。12世紀にイスラム圏で活躍したイドリーシーという先駆的な地理学者が作った地図は南が上になっており、聖地メッカが中心に位置している。宗教的心象が地図の上下位置に影響する一例だろう。中世のキリスト教では、東が上に来る地図も使われた。旧約聖書に現れる理想郷・エデンの園は「東のかた」にあったと考えられていたかららしい。

「マッカーサーの普遍的修正世界地図」は、ある種のからかいである。「オーストラリアン・ドライ・ヒューモア」のひとつかもしれない。真顔で、さりげなく皮肉を込めて言う意味深長なジョークのことである。

そう考えると、この地図、なかなかワサビが効いている。